

北風に落ち葉が舞い散り、冬の到来を思わせる季節となりました。

最近、歳のせいか涙腺が弱くなり、感動すると涙もろくなっています。朝ドラ「エール」で感動し涙、郷土歌舞伎公演の名演技で涙、映画上映会の「海難 1890」で涙。私の11月を漢字一字で表現するならば「涙」かも…。涙もろくなったことは恥ずべきことではなく、素直に感動できることで良いことなのだ自分を慰めております。

先日、加子母出身で東京大学特任教授・片田敏孝先生の講演を聞く機会がありました。片田教授は、自然災害に関する分野の第一人者です。

最近の異常気象による自然災害は想定外の規模で起こり、ダムや堤防の建設整備では災害の規模を少なくすることはできても到底防ぎきることなどできない。だから一番大切なことは、自分の命は自分で守ること、家族の命は家族で守ること、地域の命は地域で守ることである。このことを東日本大震災などの避難行動を例に挙げて力説されました。荒ぶる自然災害に対して、国、県、市町村などの行政と住民が力を合わせて立ち向かう必要性を改めて強く感じました。

コロナ、コロナで1年の大半を過ごした令和2年が過ぎ去ろうとしています。現状といえば、第三の感染拡大の波が日本中を覆い、更なる感染拡大が危惧されています。景気対策で採られたGo To Travelなどの政策の影響も確かに否定はできませんが、一番恐ろしいのは私たちの心の油断だと思います。家庭や職場での感染拡大が第三波の特徴ともいわれています。年末年始で人の動きがどうしても活発な時期になります。今一度、気を引き締めて感染防止に取り組んでまいりましょう。

今年1年間の皆様の村政に対する御理解と御協力に感謝申し上げます、来る新年には人類が新型コロナウイルス感染症を克服し、安息の日々が来ることを心から願いつつ年末年始を迎えたいと思います。

令和2年12月

東白川村長 今井俊郎